

自動車技術會設立趣意書

未曾有の歴史的な大敗戦を喫してより既に一年有半、全國民は未だに飢餓にふるへ住むに家をき有様である。

産業界はと見ればストック資材の枯渇、燃料難其の他による生産危機に直面しつつあり、終戦後の虚脱から立直の最も早かつた自動車産業も悪条件の蓄積によつて遂に縮小生産過程への突入を余議なくさせられ復興輸送達成に大きな支障を來してゐる。此の時一方に於ては新指導者層による産業復興運動が澎湃として湧き起らうとし、他方眼の邊りに飛び交ふジープ、軍用トラック、大型バスの偉力に國民の自動車に對する認識は裕段の飛躍を示しつつある。今日自動車は平和愛好の文化國家に於て公的には汽車電車と同じく、私的にはガス、水道、電氣、ラジオ同様生活必需品の一つである。

此の現状を考へる時、われわれ自動車技術者の任務は自ら明かである。即ち乏しい資材を充分活用してもつと良い車をもつと澤山作り、今ある車の保全修理に全力を盡くすと共に、將來輸入されるであらう外國車の研究に、更に進んでは飛躍的な新形式自動車の創案に全力を奮ふべきである。

これ迄自動車界には各種の技術團體があつて斯界に夫々貢獻して來たが、機運の熟した今、夫等既成團體及其の事業を打つて一丸とし事自動車技術に關する限り各方面に互る障害を取拂ひ、互に手を取合つて學術を究めると共に日常實際問題を解決し合ひ、技術と眞劍に取組む所の一つの強力な團體、即ち一言にして言へば日本に於けるS、A、E（ソサエテイ、オブ、オートモテイブ、エンジニヤース）を急據結成したいと思ふ。何卒宜しく御支援の程をわれわれ一同懇願して止まない。

昭和廿二年一月

自動車技術會創立世話人

荒牧寅雄	川越庸一	高尾勤	福川秀夫
飯島博	川田正秋	拓植陽太郎	堀越二郎
今村次郎	近藤博	二宮廣意	藪健一
梅原半二	阪井政夫	長谷川信治	吉城肇蔚
小田部巖	島治實	肥田一郎	
小野盛次	鈴木正一	平尾收	